

余野小学校だより

令和2年
4月号

夏椿

学校教育目標

「やさしく かしこく たくましく」
自ら考え、生き生きと活動する
心豊かな子どもの育成

ご入学・ご進級おめでとうございます



4月8日、満開の桜のもと、3名の新入生を迎え、全校児童16名で、新年度の余野小学校教育活動がスタートしました。3人の1年生は、背筋をピンと伸ばし、しっかりと返事をするなど、立派な態度で入学式に臨んでおり、とても感心しました。校長式辞では、新1年生に向けて、「やさしく、かしこく、たくましい余野っ子」になるために、がんばってほしいことを2つ話しました。

- ① 進んであいさつをする
- ② 自分のことは自分でできるようにする



早く学校生活に慣れ、毎日を楽しく元気に過ごしてくれることを願っています。

また、進級した2年生から6年生は入学式の準備や歓迎の言葉など、頑張る姿をしっかりと見せてくれました。これからのさらなる成長が楽しみです。

今年度は職員が大きく入れ替わり、今までの教育活動を引き継ぐとともに、新しい風も吹き込んでいきたいと思っています。

保護者・地域の皆様には、今まで同様ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

余野小学校教職員

教職員異動のお知らせ

【転出者】

校長 高野 清之 ご退職
 教諭 近藤 孝治 真庭市立川上小学校へ(教頭)
 講師 太田真由美 真庭市立八束小学校へ
 お世話になりました。
 ますますのご活躍をお祈りしています。



【着任者】

校長 難波 光広 真庭市立河内小学校から
 教諭 松浦 嘉之 真庭市立月田小学校から
 教諭 二司季代子 津山市立中正小学校から
 ※専科として毎週月曜日に石井恵子教諭(兼務)
 一生懸命がんばります。よろしくお願ひします。

校長	難波光広
教頭	江原陽子
1・2年担任	二司季代子
3・4年担任	松尾恵美
5・6年担任	松浦嘉之
非常勤講師	岩佐真也
養護教諭	小倉敏子
事務職員	苦田ゆかり
校務主任	笹井悟子
専科	石井恵子
小中連携教員	松浦浩澄
スクール・カウンセラー	市村京子
A L T	Jane (ジェーン)
A L T	Rachel (レイザル)

「今の自分が未来の自分を創る」

目標 × 努力 × 継続 = 夢

<山を登る>



「子供の頃の話です。小学校5年生になった春、ある目標をたてました。それはクラスで一番走るのが速い友達に勝つということです。それで、どうしたら勝てるか自分なりに方法を考えました。その方法とは『毎日、学校から家まで走って帰る』ということでした。学校から家までは3kmほどあります。小学生にとって3kmは長く、さらにランドセルを背負ったままで走るのは、かなり大

変です。しかし、本当に大変だったのは3kmの道のりでも、背中のランドセルでもなく、学校と家の間にある“山”でした。通学路のほとんどは、舗装もしていないでこぼこの山道で、峠の頂上に近づくにつれ、急峻な勾配が待ち受けていました。走り始めた頃は、峠の半分も山道を登ると疲れ果てて息が上がリ、残りの道程は歩いて帰っていました。それでも、毎日走っていると少しずつ走る距離が伸び、2週間もすると頂上まであと少しのところまで走ることができるようになっていました。そして、頂上まであと100mほどのその坂道が、本当の試練だったのです。切り通しのように両側に山肌が迫る細い山道は、微妙に右に左に曲がりながらもますます傾斜を増し、すでに全身汗にまみれ、かろうじて歩を進める小学5年生の男の子の目の前に、まるで壁のように立ちちはだかるのです。幾度チャレンジしてもその壁を乗り越えることはできませんでした。

2ヶ月ほどがたちました。授業が終わり、いつものようにランドセルを背負い、いつものように家に向かい山を走って帰りました。その頃には、『クラスで一番走るのが速い友達に勝つ』という最初の目的はもう完全に忘れていて、とにかくこの目の前にある壁のような山道を乗り越えることが自分の目標になっていました。そして、その時が来ました。いつもと変わらぬその日、とうとう頂上まで登り切ることができました。達成感を胸に峠を駆け下り、途中で1回も立ち止まることなく家に辿り着くことができたのです。次の日も、その次の日も、走り続けました。

秋になり、体育で50m走をすることになりました。そして、あのクラスで一番速い友達と並んで一緒に走ることになりました。『よーい、ドン』懸命に走りました。結果は・・・負けました。でも、今までいっぱい差がついていたのが、もう、ほとんど同時にゴールできたのです。負けはしたけれど、自分も速くなったなあ、うれしく思いました。

みなさん、今日の始業式は1年のスタートです。みなさん一人一人が『こんなことができるようになりたい』『あんなふうになりたい』という目標を持っていることでしょう。でも思うだけでは何も変わりません。何かできるようにになりたいと思ったら、そのための行動を起こすことが肝心です。目標を達成するためには、達成するための努力が必要なのです。

さて、さっきの話には、まだ続きがあります。あれから1年がたって、6年生の秋にまた50m走をしました。そして、またあの一番速い友達と一緒に走ることになりました。今度はどうなったと思いますか。結果は・・・やっぱり負けました。しかも、うーんといっぱい差がついて負けました。でも、それは当たり前だったのです。じつは、5年生のあの50m走の日に、うれしくて満足して、それから走るのをやめていたのですから。

目標を達成するには努力が必要です。でも、もっと大切なのは、それをずっと続けるということ、継続です。そして、それが夢につながっていくのです。今の自分が未来の自分を創るのです」



と、まあ、こんな話を始業式で子供達にしました。話をしながら我を思い、余野小学校の学校教育目標を実現するために具体的な行動を起こし、それを日々の教育活動の中で継続して実践していくことが私達の使命であると、あらためて感じるのです。・・・山を登り続けるように。